

キューバ式離婚事情 II

(安井 佐紀 編・訳)

5月18日付で紹介した雑誌『女性たち』の記事、「キューバ式離婚事情」は、キューバの政府系ウェブサイト「クーバ・デバーテ」にも紹介され、そこに多くのキューバ人の意見が寄せられています。それらを見ると、この問題のより多面的な性格が分かってきます。以下、いくつか代表的なものを紹介しましょう。

アマウリス・ドミンゲス・メリーニョ (男) :

もし、法的でない、単に合意による結婚の破局も計算に入れるなら、はるかに多くの数になるだろう。

2011/5/11 14:03

マリベ・オルタ (女) :

キューバで、離婚が3倍増えたと言う記事について、それは確かなことだと思います。というのは、これは日々、次第に増えている問題だからです。これは、男性の場合、大部分が正真正銘のアルコール中毒になっていることと、社会的な打算のために愛のない結婚をすることに、大方の原因があると思います。

2011/5/11 14:35

ダンデン(男) :

「離別」、私はこう呼びます。というのは、すべての離別が正式に結婚した連れあいのものではなく、単に一緒に住むことを決め、そのように家庭を作り、結局は様々な理由によって離別することを決める場合があるからです。これらの「離別」の数字は、もちろん統計上には出てきません。しかし、私は、そういう離婚は、低い数字ではないと思います。ところで、これらの離別を引き起こす、あるいは少なくとも影響する原因は、どこから来るのでしょうか。どなたか、こうした研究を知っていますか？

実際、近年は、特に経済的状況が重要な要因となっています。何年もの間、未解決のままの課題、つまり住宅事情があります。

2011/5/11 14:38

ブエンブ(男) :

注意を、女性の経済的自立の方にそらしてはいけない。・・・離婚は、大部分、住宅の危機によるものだ。いくつの核家族が一つ屋根の下に住んでいるか、知っているだろうか？ 誰がそれに耐えられるというのか？ これ以上理由を探す必要はない。ここに、答えがあるのだ。

2011/5/11 14:48

ラファ(女) :

1993 年が、住民 1000 人につき 6 件という、最高の離婚率の年であったという例は、経済的な側面が、結婚生活や生活のその他の面での安定にとって重要だということを示しています。それがすべてだとは言いません。というのは、愛情が、何よりも優先しますから。しかし、経済的側面は、ほとんどすべての長続きする関係においては、必要不可欠なものです。ここ数年 1993 年頃以上のことが起きていて、たとえ研究にはっきりと反映されていないけれども、離婚率が増加したように、一方ではキューバ人の平均婚姻率は減少しているのです。このことは、私が前に述べたことを裏付けるものです。

2011/5/11 14:54

ゴレム (性別不詳) :

言えることはただ一つ、そして、とても簡単なことだ。

一ある日、愛と打算が田舎へ行ったところ、愛は、道に迷ってしまったということ。

これは、よくあることだ。あなたの周りの離婚した人たちすべてを見るだけでよい。あなた自身の結論を出してほしい。

愛が口論をきっかけとして終わる時、別の愛が生まれる。それまで決して見たくなかったあらゆる欠点が現れ、他の人に惹かれて、別れるものだ。しかし、すでに昔の関係の経験があるので、別な人と出会う時、打算が出てくるのだよ。

2011/5/11 15:12

フリア (女性) :

もちろん離婚は、増え続けているわ。住むところがない家族の数に比例してね。2 世代か、3 世代までが一つの家に、時にはただ一つの部屋に同居しているわ。家庭は、そのように作られていくのです。もし一つ家の中で、全員が子供に意見を述べたり、命令を出したりしたなら、いったい何をもとに、何を子供たちに教えていったらいいの？ 離婚は、増え続けるでしょうよ。ちょうど、私たちの国の住宅不足と同じようにね。最悪なのは、まったく何の解決策も見えないことだわ。

2011/5/11 16:19

A F G (仮名) :

もし、任務で外国に勤務している医師たちにアンケート調査したり、そしてこれらの医師たちの離婚率をすることができたらね。夫婦が遠くに離れて、5 年間も持ちこたえるような結婚なんて、ないよ。

2011/5/11 18:54

エンリケ (男) :

これは、社会経済危機の結果である。その中で、私たちは生活しており、これからも生活するのである。

2011/5/11 22:24

ゴシックプリンス (ペンネーム) :

いろいろな社会問題は、われわれの魔法的な社会主義のばかげた経済の罪から起きたものである。そえゆえ、数年のうちに、死亡率が出生率を上回るときに備えるように。というのは、国外への脱出移住者が入国移住者数を上回り続けることが加わり、キューバの総人口は10年間で100万人単位で減り始めるだろうからである。これは、私の作り話ではない。キューバ統計局(ONE)が公表した統計を探してみしてほしい。そして、自分で答えを出してほしい。

ソニア・アルバレス (女) :

私は、この記事には驚きません。想像していたことだからです。

二つの記事の中では、キューバにおける離婚増加の様々な原因の中で、女性の経済的解放や住宅問題などが指摘されていますが、どちらの記事でも言及されていないことがあります。それは、道徳性の問題に関して、キューバ社会が患っている変化のことです。

早い時期から性的にリベラルであること、そして家族の価値についての正しい指導がないこともまた、わが国の離婚増加に加担していると思います。

夫婦は、家庭を維持するために自らの問題を解決しようとするのではなく、より簡単な手段に走ります。つまり、それは、なにか自然なことのよう、離婚するのです。

残念ながら、「新しい人間」の創造は、一私の考えでは、それも成功しませんでしたが一、決して家庭と家族を救護することを考慮しませんでした。

「宗教は人びとの阿片」だとか、いろいろ言っても、少なくとも宗教は、行いと道徳の、一定の規範を教えることには成功しています。しかし、痛ましいことですが、それをキューバ社会主義は達成できなかったということを認めなければなりません。